



むげんだい 大 限 夢

平成28年1月12日(火) vol.33

一年の計は元旦にあり

何事も最初に準備や計画が大切であり、初めの計画ができていないと物事はうまくいかないという意味です。この言葉の由来には諸説あるそうですが、その中の一つに戦国時代の智将、毛利元就の逸話が有名です。元日の朝、元就に祝いの膳を食べるように家臣が促したところ、元就は黙って席を立ち去ってしまったそうです。その後、家臣を呼び出して「なぜ元旦を祝うか？」とたずねたというのです。答えることができない家臣に向かって元就は、こう答えたといひます。「世の愚か者どもは、飲んで喰って、長寿・子孫繁栄を祝って浮かれているが、元旦はそんなのん気なものではなく、年の初めに一年の事をじっくり考える。それが本当の祝いというものである」と。



みなさんは、どのような計画を立てましたか？「JK」は大丈夫ですか？あっ、「準備」と「計画」です。では、今年も1年よろしくお祈いします。

10個のみかんを3人で分ける方法とは？

先週、始業式のあとにみなさんにお話ししたことを覚えていますか？(株)アビリティトレーニング代表取締役木下晴弘さんが、ある高校生向けの講演会でお話しされていた、「与えたものが返ってくる法則」を心で分かったかどうかを試すクイズ。自分の与えたものが、まわりまわって自分が受け取るという法則についてです。



自分とAさん、Bさんの3人で「10個のみかんをどう分けますか？」と質問します。すると大抵こんな答えが返ってきます。「3個ずつ分けて、残り1個は3等分にするかジャンケンで分ける」なかには面白い高校生がいて、「みかんをすべて果汁にしてジュースにして分ける」と。それは、さすがに思いつきませんでした。私はこういひます。

「なるほど、それもひとつの分け方ですね。でも、今日からみなさんは『自分2個で相手4個ずつ』、この分け方ができるようになりましょう。人生のあらゆる局面で一瞬のためらいもなくこの分け方ができる、そんな人になりましょう」と。

「先生、そんなことしてたら、いつまでたっても2個のままではないですか」という声が聞こえてきます。

いいえ、大間違いです。人生では絶対そうはなりません。「人間は望むものではなく、自分と同種のものを引き寄せる法則があるのです」つまり、自分の周りには自分と同じ価値観を持った人が集まるものなのです。

もし、自分が2個で相手が4個ずつの分け方をやったら、最初は「ラッキー、あなたの2倍もらった」と喜ぶ友達がいるでしょう。しかし、徐々にその人たちの周りには、それと似た価値観の友達しかいなくなるのです。一方で、いつも2個しかとらない人の周りには、「あなたはいつも2個しか取らないね。私は4個も要らないから、あなたに1個やるよ」という人が集まって来るのです。2人から1個ずつ戻ってきたら、結局は4個になりますよね。

★キラキラ輝く中学生★

始業式の日には、恒例の書き初め大会が行われました。新年の始めにあたり、自分の決意・思いを筆で書くという、日本の伝統行事でもあり、新年の風物詩にもなっています。みなさんの真剣な眼差しから、今年のやる気や決意・意気込みといったものが感じられました。この思いをいつまでも持ち続けてほしいものです。

剣の達人“宮本武蔵”は言ひました。

「千日の稽古を鍛(たん)とし、万日の稽古を練(れん)とす」

一千日(約3年)一つのことを稽古し続けることを「鍛」といひ、一万日(約30年)一つのことを稽古し続けることを「練」といひ。「鍛」は金属を何度も熱して打ち、強くする意味で、訓練して心やからだをきたえること。「練」は綱糸をねることの意味で、くりかえしきたえて技芸などをみがくこと。最初の3年は土台をつくり、残りの27年は細部にこだわり続けるということです。昔から、「石の上にも3年」といわれるのは、まず土台作りの3年は最低でも続けなさいということですから。そこからは、本当の勝負ですね。

2016年を迎えるにあたり、何か続けることを今のうちに考えるのも良いかもしれません。何かを変えるのに、節目は良いチャンスとなりますから…。

昨年に引き続き、今年もキラキラ輝く中学生の輪をどんどん広げていきましょう！

